

自然災害への備え

Vol.2

〜東日本大震災から私たちが学ぶこと〜

4月15日から22日の8日間、大豊町社会福祉協議会の久保圭介さんが東日本大震災で被災した宮城県東松島市社会福祉協議会が運営する東松島市災害ボランティアセンター(以下東松島市災害VC)に運営スタッフとして派遣されました。今回は、現地の状況や今後の大豊町の課題などインタビューしました。



今回久保さんが派遣された、宮城県東松島市の被災状況についてお聞かせください

- ・人口42,908人(2010国勢調査)
- ・死者942人 行方不明者776人(4月16日現在)
- ・避難所1154カ所、3,561人(4月15日現在)
- ・海岸沿いの地区については津波により壊滅的な地区があり、その他の地区でも場所により市街地の68%が浸水した地区もありました。

現地では主にどのような活動をされましたか?

主な作業内容は受け付けを行ったボランティア名簿のパソコンへの入力作業や、当日のボランティア作業の実績の作成(同市災害対策本部への報告書類)、東松島市災害VCへのボランティア依頼や希望など問い合わせ(電話)の対応が主な作業でした。



ボランティアに来られるのは、どのような方が多かったですか?

年齢層としては高校生〜高齢者まで幅広く、また、男性だけでなく女性の方も多かったです。当時、作業内容は家屋の泥出しや家具の移動といった作業が多かったです。



東松島市災害VCでは県内ボランティアのみ募集しており、県外ボランティアの受け入れについては、問い合わせのあった団体が宿泊場所や食事など地元で負担を掛けたい、自己完結での参加ができる団体のみ受け入れを行い、サテライトで活動を行っていました。派遣期間中のボランティアは延べ人数で約250〜300人で最大限受け入れておりました。

災害対策本部となる市役所の被災状況は?

東松島市役所は建物の損壊もなかったため、災害対策本部が機能しており自衛隊と連携し、災害の復旧に当たっていました。また、避難所の運営や管理・対応も行っており、県内外から避難所の炊き出し・支援のボランティアの問い合わせの対応も行っているようでした。



今後、大豊町が地震対策、被災後の対策として早急にやらなければならないと感じたことはありますか?

今回、私が東松島市で感じたことは、災害対策本部が無事であり機能したことによって、避難所への対応ができ住民の安否確認をはじめ、県災害対策本部との連絡調整や自衛隊との協力体制が取れ、その結果、社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを設置することができ、ボランティアの支援を受け入れることができたのだと感じました。

地区ごとの防災組織の体制づくりや充実、避難場所の安全確保や避難生活時の支援体制、また、県内外の支援に対する対応の確立など多くのことが浮かびますが一つひとつ体制をつくるのが大事であると思います。



2011年 6月号
ゆとりすと 通巻104号
【平成23年5月31日発行】

発行：大豊町 編集：総務課
〒789-0392 高知県長岡郡大豊町高須231番地
電話 0887-72-0450 F A X 0887-72-0474
大豊町ホームページ (http://www.town.otoyo.kochi.jp/)